

夢広がる巨大絵本

専門学校生制作☆縦1.5m 横2.1m 重さ50kg



読書の秋に、豊2校分ほどある大きな絵本がお目見えしました。巨大絵本のイラストを描いたのは、専門学校でコミックイラストを学ぶ学生。このほど絵本のお披露目を兼ねた朗読会が2日間に行われ、校内で開催されました。

見る・聴く臨場感



うっとり生演奏 生き生き朗読



場面に合わせ、巧みに音を紡ぎ出すエミュー木管五重奏団



観客

那覇市泉崎の移住学園ヒューマンアカデミー那覇校で開かれた朗読会。舞台の中央に2つの巨大な絵本が並び、縦1.5m、横2.1mもある巨大な絵本。重さはなんと50kgもあるという。

主朗読と生演奏のコラボで巨大絵本が登場。物語の世界がさらに広がる「那覇市泉崎・ヒューマンアカデミー那覇校」③学生の協力を得て完成した巨大絵本。広げると量2校分にもなる



今回完成した絵本は「動物たちのカーニバル」ピーターとおかみ「ヘンゼルとグレーテル」の3冊で、使用した絵は計65枚。同校のマンガカレッジでコミックイラストを専攻する2年生15人が半年近くかけて完成させた力作だ。構図を手描きし、それをもとにパソコンを使って制作したという。



インパクトのある大きな絵本の世界へようこそ。当山部一さんの朗読とエミューの木管五重奏の生演奏とともに楽しめます。学校や公民館などに出張してコンサートを開きます。実際の公演は来年春からを予定。希望する団体は問い合わせを。連絡先は「ミュー」、電話098(857)5695。

取材した日に読まれたのは「動物たちのカーニバル」と「ピーターとおかみ」。全編で合作した「動物たちのカーニバル」は、場面ごとに登場する動物が変化。夫婦げんかするニワトリ、ピエロをひくテナガザルなどが、色鮮やかに生き生きと描かれていた「ピーターとおかみ」は、柔らかな色使いに、かわいらしいタッチで、元氣いっぱいの印象だ。

そこに俳優や俳優を希望する学生のナレーションとプロの音楽家の演奏が加わって、物語の世界に興行きが広がる。場面が変化するたびに、ページをめくられるが、その様子も存在感があり見ているものを引き付けていた。

「ピーターとおかみ」の作画を担当した金城友恵さん(20・那覇市)は「構図を完成させるのに3月かかり、苦勞したと振り返る。朗読会当日まで、自分の絵を見るのはパソコンの画面の上ばかりだった。舞台上で上演を目の当たりにして「朗読と演奏と一緒になる」という力があつた。すごく感動して涙が出てき

た」と涙を流すわせた。仕掛け人は、クラシックやジャズコンサート企画を手掛ける「音楽工房ミニ」代表でホルン奏者の上原正弘さん(45・那覇市)。上原さんの所属するエミュー木管五重奏団は3年前から、同校の講師で俳優の当山部一さん(41・那覇市)の朗読と共演し、定期的に「音楽たけのこのコンサート」を開いてきた。公演を重ねるうちに「絵本があれば、子供たちや観客がより物語へ感情移入できるのでは」という思いが芽生えたという。

今後は当山さんの朗読とエミューの演奏に巨大絵本を加えた出張コンサートを手定めている。上原さんは「インパクトのある絵本から、ページをめくるあたかも感じほしい」。当山さんは「絵に合う声を研究している。あなたの町や学校で、巨大絵本の世界を楽しんでもいいから」。

文・上間千沙恵
写真・伊藤健